

播磨谷



ホネキス Vol.46

ムーンショット

播磨谷 ムーンショット

ムーンショット＝前人未到の困難なミッション

ある不可能なミッションに挑む人々の奮闘を通し「家」とは、「親」とは、「族」とはを問う劇団ホチキス代表米山和仁の最新作。

主演に里中将道を招き、2023年4月、春の嵐を巻き起こす!

あらすじ

殺し屋が潜伏した先は、奇妙な住人と、うまい飯が集うドライブインだった…。闇に潜む悪を専門に葬る暗殺者集団、「ナンバー」名前を持たず、番号で呼ばれるアサシン達で構成された組織だ。その中でもNo.1の実力を持つと言われる「453番」に下されたのは「1000日殺し」だった。1000日殺しは、およそ3年の間ターゲットの近辺に潜入し、相手を信頼させた上で暗殺を行う特殊な殺し方。453番のターゲットは、山奥なのに客足が絶えないドライブインで、豆腐店を営む初老の女性、播磨谷多鶴子(はりまやたずこ)だった。彼女の命を狙うべく、「シコミ」という名前を与えられた453番だったが、彼女の周囲には奇妙な住人ばかりいて…。ホチキスが贈る、ヒューマンアサシン コメディー!!

会場 2023年4月7日(金)～4月16日(日)

4,7(金)	8(土)	9(日)	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)
19:00	13:00 18:00	14:00	休演日	19:00	19:00	19:00	14:00 19:00	13:00 18:00	12:00 16:00

脚本・演出 米山和仁

出演



里中将道



太田将照



校條拳太郎



齋藤陽介



每熊宏介



野口オリジナル



丸山泰右



内村理沙



山本洋輔



ゆでちい子



小玉久仁子



山崎雅志 特別出演

公演日程

あうるすぽっと

豊島区立舞台芸術交流センター



170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F [アクセス] ©東京メトロ 有楽町線「東池袋駅」6・7出口より直結 ©R他各線「池袋駅」(東口)より徒歩10分 ©都電荒川線「東池袋四丁目」より徒歩2分

チケット

◎スーパープレミアム：10,000円(税込)

※最前列含む前列エリア・非売品特典付(会場にてお渡し)

◎一般：7,000円(税込)

★初日割引 スーパープレミアム：6,500円(税込)

※最前列含む前列エリア・非売品特典付(会場にてお渡し)

★初日割引 一般：4,500円(税込)

※最前列含む前列エリア・非売品特典付(会場にてお渡し)

チケット発売 一般発売 2月18日(土)10:00～

チケット取扱 Confetti (カンフェティ)

◎WEB予約 <http://confetti-web.com>

◎電話予約 0120-240-540 (受付時間 平日 10:00～18:00)

[特設ホームページ] <http://www.hotchkiss.jp/harimaya>

スタッフ ◎総合アートディレクター：小玉久仁子 ◎演出助手：千原優花 ◎舞台監督：岩谷ちなつ ◎演出部：服部寛隆/山田朋佳 ◎照明：阿部将之(LICHT-ER) ◎音響：石井雄太(Entracte Inc)/吉田寿子 ◎美術：泉真 ◎衣装：清水喜代美 ◎衣装進行：佐久間のぞみ/吉本明加 ◎ヘアメイク：黒田はるな ◎ヘアメイク協力：木戸望/遠田瞳 ◎殺陣指導：森大 ◎殺陣アシスタント：高見彩己子 ◎作曲：河野文彦/岡田太郎 ◎宣伝美術：中戸健司(Creators Group MAC) ◎イラスト：小玉久仁子 ◎写真：佐藤孝仁(BEAM×10) ◎WEB：プラン・ニュー・トーン(かりいーすと/くらぶ/阿波屋結美) ◎キャスト協力：柊井妙子(c4) ◎舞台写真：渡辺慎一 ◎稽古場アンダースタディ：小黒 樹 ◎当日運営：LUCKUP ◎票券：LUCKUP ◎制作：LUCKUP ◎制作協力：(株)レジェンドステージ ◎企画・制作：ホチキス

米話「アラレ」

私が小さい頃、母方の祖母の家に遊びに行くのが大好きだった。理由のひとつに、そこへ行くと、いくらでも「アラレ」を食べる事ができたからだ。私の祖母は当時、母屋の隣にある小さな“離れ”で内職をしていた。アラレに海苔を巻く内職だった。工場から、一斗缶いっぱいに入ったアラレが届かれ、そのアラレに海苔を巻き、また一斗缶に入れ、工場に送り返す。そんな仕事をしていて、大量のアラレの中には、形が悪く売り物にならないいわゆる「ハネモノ」がある。そのハネモノは別の缶に入れられ廃棄される。その廃棄缶の中のアラレならば、いくら食べてもよかった。だから私は、祖母の部屋へ行くと好きなだけアラレを食べる事ができた。私は海苔を巻く祖母の隣で、アラレをほうばりながら、漫画を読んだり、おもちゃで遊んだりしていた。そんな記憶があるのだが、おかしな事に母や姉にその事を話しても、「祖母はそんな内職はしていないかった」と私の記憶を否定するのだ。だがよく考えれば、確かにおかしい。工場できたアラレをわざわざ一般家庭に送り、海苔を巻いてもらい回収なんて、非効率かつ、非衛生的なことをするのだろうか…。私のこの記憶は、いったい何だったのだろうか…。祖母の海苔巻きの記憶の中に、一つだけ鮮明に覚えている事がある。祖母がアラレに巻く海苔を取る時に、たまに、親指をべろりと舐めて取っていた風景だ。そうか、コンプライアンス的なあれで、アラレ会社の巨大な圧力の元、私の見た事はなかった事にされているのだろうか。そのうち私は、消されるのだろうか、妄想は尽きない。今回はそんな、食べ物屋のバックヤードの世界の妄想を膨らませてみたお話。ホチキス代表 米山和仁